2020
1
No. 686

國學院大學學報

国学院大学
令和２年１月20日㈪　定期号（毎月20日発行）１部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

「輝く朝」

静かなる睦月ついたちを
ひとりなり。
四方の木の葉の　輝くを見つ
（「倭をぐな」）
釈　迢空

祭　儀　■ **月次祭**　２月１日（土）　午前10時　神殿　■ **建国記念祭**　２月11日（火・祝）　午前11時　神殿　■ **天長祭**　２月23日（日・祝）　午前11時　神殿

（産経新聞社提供）

有言実行 総合３位

箱根駅伝

令和初、創設から１００年を迎えた第96回の東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）は１月２、３の両日、東京・大手町―神奈川県箱根町・芦ノ湖畔往復の10区間、２１７・１キロで行われ、国学院大学陸上競技部は、前回大会の総合７位を大きく更新し、過去最高の３位（往路２位、復路10位）となった。10区間のうち７区間で区間新が記録された高速レースは、青山学院大が10時間45分23秒の大会新記録で２年ぶり５回目の優勝を飾った。

昨年10月の出雲駅伝を初めて制した本学は、「歴史を変える挑戦―強さを証明し、さらなる高みへ―」をスローガンに、「往路優勝、総合３位」を目指して挑んだ。

往路は、１区藤木宏太選手（神文２）が終盤に集団から抜け出し２位でたすきを繋ぐと、２区土方英和選手（主将・健体４）、３区青木祐人選手（経ネ４）、４区中西大翔選手（健体１）が上位を維持した。前回大会で５区区間新・区間賞の浦野雄平選手（経営４）は、自身の持つ区間記録を上回る好走で、先頭の青山学院大を猛追したが、差は縮まらず。過去最高の２位でゴールに飛び込んだ。

先頭から１分33秒差でスタートした復路では、６区島﨑慎愛選手（経営２）ら箱根駅伝初挑戦の選手が実力を発揮し上位をキープした。３位と約１分差の５位でたすきを受けた10区殿地琢朗選手（健体２）は、先行する東京国際大、明治大を猛追。中盤以降は帝京大を含めた４校の競り合いになったが、残り１キロで抜け出し、総合３位でゴールを駆け抜けた。

【最終面に関連記事】

子年特集

記念の年に新しい風

令和２年を迎えた。「庚子（かのえね）」の今年は、56年ぶりとなる東京五輪・パラリンピックが開催される。「復興五輪」を掲げる今大会。「スポーツの祭典」に世界の人々が集い、アスリートたちの戦いに熱狂するとともに、国際交流も活発に行われることだろう。日本が世界に注目される一年になることは間違いない。

今年は、わが国最古の正史『日本書紀』が編纂（へんさん）された養老４（７２０）年から１３００年という記念の年にあたる。学内に目を向けても周年がめじろ押しとなり、皇典講究所を母体として国史、国文、国法を攻究する教育機関「国学院」（本科３年・研究科２年）が明治23（１８９０）年に誕生してから１３０年、国学院が大学令により国内初の私立大学の一つとして認可された大正９（１９２０）年から１００年となる。また、天照皇大御神をはじめ、八百万（やおよろず）の神々をお祀りしている神殿が現在の地に鎮座した昭和５（１９３０）年から90年にあたる。

こうした記念すべき年に、国学院大学の学びに新しい風が吹き込む。50年を超す歴史を持つ経済学部は４月から、現行の３学科制から経済学科、経営学科の２学科８コースに改組されて生まれ変わり、大学院法学研究科には「公務員養成コース」を新設。時代の要請に沿った、より実践的な人材育成を目指す本学の新たな挑戦が始まる。

新年を飾る今号では、本学を卒業後、東京芸術大学などで声楽を学び、オペラの本場、ヨーロッパで活躍した異色の経歴を持つ院友のテノール歌手、西岡慎介さん（41、平13卒・109期日文）に新年の抱負を伺ったほか、文学部の服部比呂美准教授に民俗学の視点から干支にまつわるエピソードを寄せてもらった。

【4、5、6面に関連記事】

みはるかすもの

東京五輪まで残り２００日を切り、小池百合子東京都知事が年頭の挨拶で「祝祭ムードも高まってきた」と語ったように五輪・パラリンピックに向け高揚感が増してきた▼一方で、今年は英国のＥＵ離脱や米大統領選挙などが控えている。各地で紛争の火種を抱えて世界情勢は混沌（とんとん）としている。新年早々、米国とイランの武力の応酬が勃発。国際社会に緊張が走った▼東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の森喜朗会長が６日、年頭挨拶で「世界が平和でなければ、このスポーツの祭典はできない」と語ったが、平和の価値が揺らぎつつある年の始めとなり、先行きは不透明だ▼地球レベルで取り組まなければならない環境問題も、今年の注目課題の一つだろう。目下、オーストラリアでは、大規模な森林火災が発生し、拡大を続けている▼ロイター通信によると、これまでの延焼面積は約１０３０万ヘクタール。韓国の面積に匹敵する規模だという。野生生物への影響も深刻で、シドニー大は、豪州全土で哺乳類、鳥類、爬虫（はちゅう）類など10億匹以上が死んだとする研究結果を発表した▼困難が続く国際情勢と環境問題。世界の目がＴＯＫＹＯに注がれ、世界との距離が近くなる１年であるからこそ、私たちも世界に敏感であるべきであり、解決の糸口を積極的に示す時だ。さまざまな困難を乗り越えて、夢を実現したオリンピアン、パラリンピアンがＴＯＫＹＯに集う夏は、刻一刻と近づいている。

主な内容　**2面**／年頭所感　**3面**／元年度第１回学生部長賞
4・5面／特集・注目の院友 テノール歌手 西岡 慎介さん「失敗恐れず挑戦を」　**6面**／インフォダイジェスト
最終面から K:DNA　**Ⅰ面**／陸上競技部 最後まであきらめず２年間の集大成　**Ⅱ面**／柔道部インタビュー「３人で世界の強豪に挑む」

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882–2022

年頭所感

140年、150年と続くために

学校法人国学院大学　理事長　**佐柳 正三**

庚子年（かのえねどし）の新春を迎え、謹んで御祝詞を申し上げます。

昨年は、御代替わりを迎え「令和」という新しい元号となりました。本法人においては大学の陸上競技部が出雲駅伝で優勝したほか各方面で学生たちが活躍し、加えて国学院大学久我山高校の野球部が28年ぶりに甲子園に出場し初勝利を収めるといったうれしいニュースが続き、実り多い一年となりました。

教育研究業界を取り巻く環境としましては、中央教育審議会が平成30年11月26日付で公表した「２０４０年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」で学習者本位の教育への転換を教育研究機関に求めており、日本私立大学連盟は、法人のガバナンスの強化と健全性の向上を目的とし「私立大学ガバナンス・コード」（令和元年6月25日公表）を策定しています。このように高等教育機関として目指すべき姿が明確となったいま、本法人としましても経営力の強化に取り組み、教育、研究がどうあるべきか、構成員一人ひとりが考え、実行していかなければなりません。

明治22年1月10日、時の司法大臣山田顕義伯は、皇典講究所所長就任にあたり、教職員に対して「諸君は乞食をしても、この事業を成し遂げる覚悟があるか」と戒めています。私自身も初心にかえり、今一度この言葉を胸に覚悟を持って事業に取り組んでいきたいと思います。

本年は、干支の1番目になります。干支において、「子」というのは本来、「し」と読み、これは植物が子孫を増やすために成長し始める「孳（し）」を意味しているとも言われています。これにならい、原点を見つめなおし、１４０周年、１５０周年と本法人の遺伝子を持った有為な人材を一人でも多く社会に輩出できるよう「オール国学院」の精神で邁進する所存でございます。引き続き、ご指導ご鞭撻の程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

本年が皆さまにとってよりよい一年となりますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新たな「知」の創造をめざす

国学院大学　学長　**針本 正行**

あけましておめでとうございます。

あたらしき令和の御代の安寧を皆さまとともに言祝（ことほ）ぎたく存じます。

人工知能（ＡＩ）の時代を迎え、産業構造・就業構造も大きく変化することが予想されています。ＡＩが急速に進歩し、これまで人間が行ってきたことが機械やロボティクスに代わり、大量のデータが瞬時に分析され、人間は何をなすべきか、何ができるのか、など人間の存在意義が問われている時代であります。一方で、人間とはいかなる存在であるのか、今、生きている自分自身の本性とは何かを問い直す、よい機会が与えられているともいえます。それゆえに、神道精神に基づき人格を陶冶（とうや）し、有用な人材を育成することを目的とする国学院大学の社会的使命はますます大きいものになっていると思われます。

現在、大学は、2年後の創立１４０周年事業の一つとして、たまプラーザキャンパスに、新学部を設置すべく準備を進めています。すでに、たまプラーザキャンパスには、平成21年度から人間開発学部を展開しています。ここに新学部が誕生することになれば、２つの学部の「知」が互いに刺激し合い、新たな「知」が創造されることを期待しています。

また、本年の7月～9月には、「２０２０年東京五輪・パラリンピック」という国際的行事も予定されています。この歴史的な行事に、大学が独自に施設を提供することで、世界の国々と人的にも文化的にも交流をはかり、確かなる足跡を残すことができればと存じます。

全教職員とともに、学生一人ひとりの思いに寄り添い、学生の自己実現に資することができるように、教育・研究の環境を整え、国柄を明らかにする人材育成につとめる所存です。ご理解、ご協力、ご教導をよろしくお願い申し上げます。

「令和」初の成人加冠式

「稚心を去れ」西岡神道文化学部長

教員から冠を授けられる新成人学生

「令和」初となる国学院大学の成人加冠式が1月11日、渋谷キャンパスで執り行われた。13回目を迎えた今年は、色鮮やかな衣冠や正服などに身を包んだ男女各25人の新成人学生が参加し、多くの保護者や在学生、教職員から祝福を受けた。国内の大学で、神式の成人式を公式行事として行うのは本学のみ。

式典では、成人の証しである冠や釵子（さいし）などを教員から頭上に授けられる「加冠の儀」の後、学内の神殿に奉告。続く「祝賀の儀」では、在学生有志が祝意を込めて神楽舞「浦安の舞」を披露した。

西岡和彦・神道文化学部長・教授は「稚心（甘える心）を去り、自助努力の精神をもって、ご父兄を支えられるように成長しよう、責任感のある立派な人になろうと、誓ってほしい」と祝辞を述べた。

詳報は2月号に掲載予定。

歳旦祭を斎行

歳旦祭（斎主・大野靖仁神殿奉斎員・神道研修事務部長）が１月１日、渋谷キャンパスの神殿で執り行われた。佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ、学校法人国学院大学傘下諸学校の役教職員、学生らが参列し、今年一年の平安と、本法人の隆昌を祈念した。その後、若木タワー18階の有栖川宮記念ホールで直会（新年祝賀会）が開催された。

佐柳理事長は「本法人の最大の課題は、少子化に迅速に対応できるかだと思っている。難問に打ち勝っていくには、教職員の覚悟が必要だ。一致団結して乗り切って、国学院大学の伝統を積み重ねていかなければいけない」、針本学長は「古来、日本では正月二日に祝儀性のある書物を読む習わしがある。これに倣って正月歳旦に国学院大学の輝く未来を祝したい」とそれぞれ挨拶した。

東急スポーツシステムと連携協定締結

学校法人国学院大学は昨年12月23日、東急スポーツシステム（東京都渋谷区）と連携・協力に関する協定を締結した。

同協定は、両者のスポーツを通した地域連携や教育支援に関して一層の充実を図るとともに、その成果の普及を促進することにより、社会貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

調印式には佐柳正三理事長と南口綱代表取締役社長らが出席し、協定書に署名をしたのち、握手を交わした。

令和2年度一般入試 出願始まる

令和２年度の国学院大学一般入学試験の出願が１月４日から始まった。大学入試センター試験利用入試Ｖ方式（Ｉ期）は17日、一般入試Ａ日程は21日、同Ｂ日程は２月20日、大学入試センター試験利用入試Ｖ方式（Ⅱ期）は３月３日まで出願を受け付ける（当日消印有効）。

本学では出願、受験票印刷、合格発表までを集約したウェブサイト「UCARO（ウカロ）」を利用している。出願には、UCAROへの会員登録（無料）が必須となる。

訃報　元専任職員 蒲池氏

蒲池廉一郎氏（大学事務局元主幹）が昨年12月11日に逝去。81歳。告別式はすでに執り行われた。

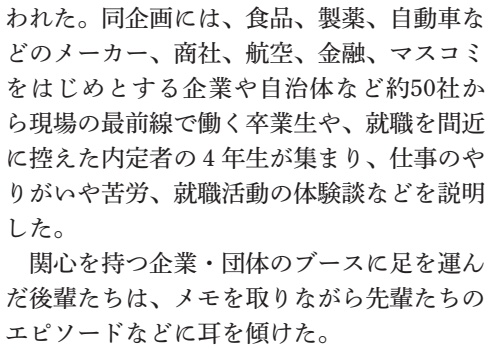
蒲池氏は昭和13年生まれ。37年国学院大学文学部卒業。38年国学院大学事務局学生生活課。広報課長、校友課長などを歴任し、平成13年校友課主幹。15年自己都合退職。

中国・南開大学と協働シンポ

国学院大学研究開発推進機構と中国・南開大学外国語学院による第１回国際協働シンポジウムが昨年12月15日、天津の南開大学で開催された。同シンポジウムは平成30年に締結された研究協定に基づくもので、日中の研究者９人が元号、譲位、天皇、大嘗祭などをテーマとして研究発表と意見交換を行った。

本学からは根岸茂夫文学部教授、岩瀬由佳文学部教授、渡邉卓研究開発推進機構准教授の３人が出席。根岸教授が「17世紀の東アジアと大嘗会の再興」と題して発表するなど、6時間に及んで活発な議論が交わされた。

卒業後のお金を考える厚労省と連携し説明会



卒業後のお金について考える説明会が昨年12月17日、厚生労働省の協力を得て渋谷キャンパスで開かれた。日本学生支援機構奨学金受給者が対象の継続説明会に合わせて実施された説明会には、ファイナンシャルプランナーの井戸美枝さんが講師として登壇した。

井戸さんは、卒業後の社会人生活には「家計管理やマネープラン力が不可欠」と話し、「お金の使い方には人によって癖がある」と指摘した。その上で、将来の年金について個人型確定拠出年金『iDeCo（イデコ）』などにも触れ、早期からの資産形成の重要性を説明し、「収入に見合った支出管理を行い、身の丈に合った生活を送ってほしい」と締めくくった。

採用活動本格化を前に先輩がアドバイス

学生の人気が高い企業や官公庁で活躍する卒業生や内定を得た４年生が、後輩たちに就活のアドバイスをするＯＢ・ＯＧ内定者アドバイス会が１月11日、渋谷キャンパスで行われた。同企画には、食品、製薬、自動車などのメーカー、商社、航空、金融、マスコミをはじめとする企業や自治体など約50社から現場の最前線で働く卒業生や、就職を間近に控えた内定者の４年生が集まり、仕事のやりがいや苦労、就職活動の体験談などを説明した。

関心を持つ企業・団体のブースに足を運んだ後輩たちは、メモを取りながら先輩たちのエピソードなどに耳を傾けた。

元年度第１回学生部長賞 ３団体と４人が受賞

学生部は令和元年度第１回学生部長賞を３団体と４人に贈ることを決定した。同賞は課外活動において素晴らしい成績を収め、国学院大学の名を大いに高めた学生に贈られる。表彰の対象となるのは昨年９月末までの成績。10月以降は第２回の選考対象となる。表彰式は３月に実施予定。

受賞団体・個人（敬称略）は**別表**の通り。

昨年６月に行われた第24回関東学生スポーツチャンバラ選手権大会で有段男子楯長剣の部で初めて優勝し、各種目の優勝者によって争われるグランドチャンピオンも制した冨田剛弘選手（スポーツチャンバラ部・神文４）は「３年次から伸び悩む時期が続いたが、自分のスタイルを確立して試合に臨めた。後輩の１年生にとって初めての大会で勝てて、先輩の威厳を保つことができた」と振り返った。

硬式野球部の小川龍成選手

ソフトテニス部の谷岡凌太朗選手

団　体

団体名	対象事項
吹奏楽部	●建国記念の日奉祝パレード 第15回マーチングコンテスト 最優秀賞（１位） ●令和元年度東京都大学吹奏楽コンクール 金賞
スポーツチャンバラ部（女子）	●第24回関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 女子１部リーグ初優勝
ソフトテニス部（男子）	●関東学生ソフトテニス春期リーグ戦　男子１部 初優勝

個　人

氏名（所属）	対象事項
小川龍成（健体３・硬式野球部）	●第43回日米大学野球選手権大会 侍ジャパン日本代表（遊撃手）選出
佐々木亮介（神文３・陸上競技部）	●天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子800m ７位入賞
谷岡凌太朗（健体３・ソフトテニス部）	●第１回関東ソフトテニスシングルス大会 優勝 ●令和元年度東日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会 準優勝
冨田剛弘（神文４・スポーツチャンバラ部）	●第24回関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 有段男子楯長剣 優勝 ●第24回関東学生スポーツチャンバラ選手権大会 男子グランドチャンピオン

学問ノ道 第23回

新生国学院大学の礎を築いた石川岩吉

石川 岩吉

昭和21年１月、国学院大学の経営母体であった皇典講究所は神社本庁へ結集することとなり、本学は同年３月に財団法人国学院大学として独立した法人となった。戦中期の本学を牽引（けんいん）した佐佐木行忠に代わり、同年８月に理事長兼学長へ就任したのが石川岩吉（１８７５～１９６０）であった。

石川は国学院第３期生（明治28年７月卒）。卒業後は３年間の兵役を経て明治31年に、国学院で師事した湯本武比古が社長を務める開発社に入職し、雑誌『教育時論』の記者となる。34年には湯本と共著で『日本倫理史稿』（開発社）を刊行、同年９月には湯本の後任として国学院講師となり「日本倫理」を講じた。

日露戦争に際して召集出征し、召集解除後の40年に国学院大学主事心得となり、皇典講究所に勤務した。42年には国学院大学主事兼皇典講究所幹事に就任して教務課長となり、同時に『國學院雑誌』の編集にも従事した。この間、『日本倫理史稿』を大幅に増補改訂した『日本倫理史要』（開発社、42年）を刊行。また天皇機関説をめぐる美濃部達吉と上杉慎吉による議論に示唆を受けて、唯一の単著である『国体要義』（開発社、大正２年）を刊行した。

その学務から研究にわたる活躍は「国学院の石川か、石川の国学院か」と評され、国学院大学学監であった杉浦重剛の絶大な信頼を得た。その杉浦の推薦により４年６月に皇子傅育官に任じられたのをはじめとして、高松宮付別当心得（14年）、高松宮付別当（昭和３年）、東宮傅育官（11年）などを大正初期から昭和前期に至るまで歴任した。

戦後の理事長兼学長就任後は新生国学院大学の維持発展に尽力し、財政再建のため22年に国学院大学後援会を設立、翌23年には全国の神社を巡訪して寄付金を募った。その際、「お願いに出るのに無駄な金を使っては済まない」として、利用する列車は常に三等車を使い、決して二等車を使わなかったと伝わっている。また、神道精神を基底とした建学の精神の堅持に努めつつ、各学部の開設や付属教育機関の開設に尽力し、さらには30年に新たな研究調査機関としての日本文化研究所の創設に尽くし、初代所長に就任した。34年９月、国学院大学理事長・学長を辞任。同年10月に本学から名誉学長の称号が贈られた。35年６月６日、慢性鬱血性心不全のため85歳で逝去。百日祭の日に胸像が完成して渋谷キャンパス内に建てられ、本学では現在に至るまでその業績を顕彰している。

明治23年の国学院設立から１３０年を迎える本年は、新生国学院大学の礎を築いた、石川の事績や思想を再検討する最良の契機といえよう。

研究開発推進機構助教　高野裕基

注目の院友

失敗恐れず挑戦を

テノール歌手　西岡 慎介さん

ヨーロッパ発祥の総合舞台芸術「オペラ」。日本語では「歌劇」と訳され、「フィガロの結婚」「トゥーランドット」など人気作品は多く、美しい旋律に乗せて繰り広げられる男女の愛、生死を賭けた戦いといった人間ドラマが魅力だ。テノール歌手、西岡慎介さん（41、平13卒・109期日文）は国学院大学在学中に声楽家を志し、東京芸術大学、同大学院を経て、留学先のドイツでフライブルク歌劇場の専属ソリストとして活躍した。アジア人にとって、ヨーロッパの歌劇場で専属ソリストになるのは狭き門。本場の舞台で夢を実現させた西岡さんは現在、拠点を日本に移し、演奏活動の傍ら、昨春からは教職の道も歩み始めている。実力主義の厳しいクラシック音楽界で、ひたむきに努力を重ねてきた西岡さんに、８年間のドイツ生活を振り返ってもらうとともに、これからの夢を語ってもらった。

にしおか・しんすけ
昭和53年生まれ。東京都羽村町（現・羽村市）出身。平成13年、国学院大学文学部日本文学科に入学し、フォイエル・コール混声合唱団に所属。卒業した17年、東京芸大音楽学部声楽科入学。同大学院音楽研究科声楽専攻独唱科修了。21年、ドイツ留学。フライブルク歌劇場で演目別契約（'12～'13年）と専属契約（'13～'17年）を通じ、約30演目250回の公演にソリストとして出演。フライブルク音楽大学大学院修了。29年、活動拠点を日本に移す。現在、桐朋学園芸術短大、山脇学園中学・高校で非常勤講師を務めるとともに、自宅で開く音楽教室「Chimu's music」で声楽指導にあたる。日本カール・レーヴェ協会会員、二期会会員。
《受賞歴》東京芸大音楽学部同声会賞受賞。二期会オペラ研修所第51期マスタークラス修了時に優秀賞受賞。第20回 Oper Oder Spree国際音楽祭（ドイツ）でグランプリ受賞。その他、国内のコンクールに多数入賞。

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。

■転機は混声合唱団

――音楽の道を選んだ転機は

実は高校2年までは、小学3年から続けてきたピアノで音楽大学に進学したいと思っていましたが、親の反対にあって断念したんです。国学院大学には、国語の教員になることを目指して入学しました。大学2年のとき、所属していたフォイエル・コール混声合唱団のボイストレーナーの先生から「とてもいい声をしている」とほめていただいたことで、音大にもう一度挑戦してみたくなったんです。

――在学しながら東京芸大を目指すには、相当な苦労があったのでは

ものすごく勉強しました。心の支えになってくださったのが、卒業論文の指導教員だった佐野光一先生（当時・文学部教授、平成29年逝去）です。佐野先生の専門である書道はアートです。同じ芸術の道に進もうとしている僕を、「音楽で生きていくと決めたのなら、徹底的にやりなさい」と応援してくださいました。

――ドイツ留学までの道のりは

東京芸大大学院に在学中、二期会オペラ研修所にも所属しました。そこで知り合ったのが、妻（ソプラノ歌手の倉谷千明さん）です。妻とは大学院修了後に結婚し、一緒にフライブルクへ留学しました。

■直談判でつかんだチャンス

――ドイツでは声楽家として飛躍する一方、苦労も多かったのでは

ドイツで歌劇場のオーディションを受けるためには、音楽エージェント（事務所）の仲介が必要で、まずはエージェントに声を認めてもらわなければなりません。でも、ようやく受けられたオーディションも惨敗の連続。「アジア人は必要ない」という空気も感じました。つらくて、泣いたこともあります。現状を打破したいという思いで、留学地にあるフライブルク歌劇場に直接、履歴書を持ち込み、直談判したんです。すると、幸運にもオーディションのチャンスをいただき、契約してもらうことができました。留学3年目のことです。

――歌劇場との契約が実ってからの活動は

ドイツの歌劇場では、オーケストラと合唱団のメンバーは終身雇用で劇場と契約を交わしますが、専属ソリストは総支配人との単年契約です。気に入ってもらえなければ、1年で劇場を去らねばならない歌手もいますから、必死でした。アジア人ということで、あからさまな差別や嫌がらせを受けたこともあります。「日本に帰りたい」と妻に漏らしたことは一度ではありません。妻からはそのたびに、「他の日本人歌手が望んでもできないことをしているのに、それでも帰りたいなら、帰ればいい。だれも、あなたにドイツでオペラ歌手になってほしいと頼んだわけじゃない」と言われました。そんな妻の励ましもあって、「もう少し頑張ろう」と続けているうちに、8年がたっていました。

――ドイツで感じた自身の成長とは

歌劇場のソリストとして5シーズン務めました。特に自分が成長したと感じたのは、4シーズン目に出演したミュージカル作品での出来事です。共演歌手の一人がせりふを間違え、物語が本来とは違う展開になりそうになったんですが、とっさにドイツ語のアドリブで対応できたときは、自分のことを「一皮むけた」と思えました。日常生活も含め、ドイツで積み重ねてきたことが生きたんだと自信になりました。

■演奏家と指導者の両立を

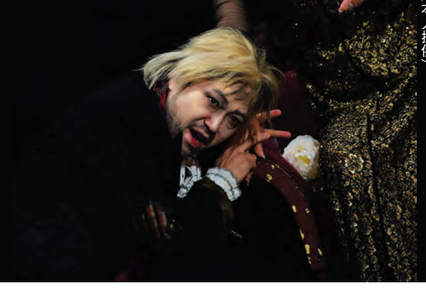
――これからの目標や夢は

プレーヤー（演奏家）と指導者の両立です。指導者として自分の経験を伝え、自らも経験を重ねて芸を追究していきたいと考えています。そして何より大切なことは、演奏と舞台のクオリティーを上げ続けていく努力を怠らないということです。

――本学の学生にエールを

失敗することを恐れずに挑戦してほしいと願います。自分の知らない海外の文化、生活にも触れてほしいです。失敗を経験しなければ、先には進めないし、新しい可能性は見えてきません。チャレンジ精神と好奇心を持って、人生を歩んでください。

――ありがとうございました



フライブルク歌劇場で数々の作品に出演した西岡慎介さん（本人提供）

令和２年　国内外の主な動き

1月	18日	●最後の大学入試センター試験（～19日）
	21日	●世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議、～24日、スイス・ダボス）
2月	14日	●第１回箱根駅伝開催から100年
3月	１日	●東京マラソン
	11日	●東日本大震災から９年
	26日	●東京五輪聖火リレーが「Ｊヴィレッジ」（福島県）からスタート
4月	19日	●秋篠宮文仁親王殿下が皇位継承順位１位の「皇嗣」となられることを示す「立皇嗣の礼」
5月	１日	●天皇陛下ご即位から１年
6月	23日	●日米安全保障条約発効から60年
7月	１日	●プラスチック製レジ袋の有料義務化
	５日	●東京都知事選挙投開票
	24日	●東京五輪開会式
8月	９日	●東京五輪閉会式
	25日	●東京パラリンピック開会式
9月	２日	●サッカーワールドカップ（W杯）アジア最終予選開幕
	６日	●東京パラリンピック閉会式
10月	16日	●卓球男子W杯（～18日、ドイツ・デュッセルドルフ）
	23日	●卓球女子W杯（～25日、タイ・バンコク）
11月	３日	●米大統領選挙投開票
	17日	●霊仙・普賢岳噴火から30年
	21日	●20カ国・地域（G20）首脳会議（サミット）開幕（～22日、サウジアラビア・リヤド）
12月	４日	●東北新幹線全線開業から10年
	31日	●人気アイドルグループ「嵐」がグループ活動を休止
12月ごろ		●探査機「はやぶさ２」が帰還（オーストラリア）

※『共同通信ニュース予定2020』（共同通信社）を基に作成

令和２年　大学・強化３部会の主な動き（予定）

1月	21日	●後期授業終了
	23日	●学年試験（～29日）
2月	２日	●一般入試　A日程（～４日）
	26日	●一般入試　B日程
3月	21日	●大学院学位記授与式
	22日	●卒業式
	23日	●スプリングセッション（～26日）
4月		●新石川校舎（現「たまプラーザキャンパス」）完成、授業を開始から35年
	５日	●入学式（学部）
	６日	●授業開始
	15日	●大学令による大学昇格から100年
	月内	●硬式野球部・東都大学野球春季リーグ開幕
5月	１日	●神殿鎮座記念祭　神殿鎮座から90年
	月内	●柔道部・東京学生柔道優勝大会
6月	月内	●若木体育祭
	27日	●柔道部・全日本学生柔道優勝大会（～28日）
7月		●「国学院」設立から130年
	11日	●前期授業終了　※保育士課程の科目は18日
	13日	●前期試験（～18日）
	25日	●夏季休暇（～９月17日）
9月	８日	●サマーセッション①（～11日）
	14日	●サマーセッション②（～17日）
	21日	●後期授業開始
	26日	●柔道部・全日本学生柔道体重別選手権大会（～27日）
	月内	●硬式野球部・東都大学野球秋季リーグ戦開幕
10月	11日	●陸上競技部・出雲駅伝
	17日	●柔道部・全日本学生柔道体重別団体優勝大会（～18日）
11月	１日	●陸上競技部・全日本大学駅伝
	４日	●創立記念日
	月内	●若木祭
12月	26日	●年内授業終了

インフォダイジェスト

… 在学生　… 保護者　… 卒業生　… 一般　… 受験生
内内容　日日にち　時時間　場場所　対対象　申申し込み　料料金　問問い合わせ

大学からのお知らせ

2・3月中の事務室開室および証明書自動発行機稼働日程

2・3月中の下記事務室の開室と証明書自動発行機の稼働日時は、渋谷・たまプラーザキャンパスとも本学HPを参照してください。

▶神道研修事務課、教務課、学修支援センター相談室、ボランティアステーション、英語教育センター、教職センター、大学院事務課、学生生活課、保健室、学生相談室、キャリアサポート課、国際交流課、たまプラーザ事務課、図書館、コンピューター自習室

イベント

国際研究フォーラム「21世紀における国学研究の新展開 国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」

内国学院大学研究開発推進機構日本文化研究所と古事記学センターが共催する、国学研究の国際的な相互交流をテーマとしたフォーラムです。「国学」とされるものの対象範囲を狭く限定せず、国学を起点とした広範な研究ジャンルへの展開・関連を探究していきます。報告者などは以下の通り（敬称略）。

▶**報告者**：ベティーナ・グラムリヒ＝オカ（上智大）▽蔣建偉（中山大、中国）▽藤原義天恩（レスブリッジ大、カナダ）▽裵寛紋（KAIST、韓国）▽ジョン・R・ベンテリー（北イリノイ大、アメリカ）▽松本久史（本学）

▶**コメンテーター**：一戸渉（慶応義塾大）▽桐原健真（金城学院大）▽林淳（愛知学院大）

▶**司会**：遠藤潤（本学）

日2月8日㈯
時10時～17時30分
場渋谷キャンパス常磐松ホール
料無料
申2月1日㈯までに本学HPの申し込みフォーム（https://k-form.kokugakuin.ac.jp/m/kokugaku-forum）から
問研究開発推進機構事務課（☎03・5466・0104）

大学院学位記授与式

内大学院の第68回学位記授与式を以下の通り執り行います。
日3月21日㈯
時11時～
場渋谷キャンパス常磐松ホール
問大学院事務課（☎03・5466・0142）
※13時から有栖川宮記念ホールで祝賀会を開催します

春のオープンキャンパス

内新高校2・3年生対象のオープンキャンパスを開催します。受験勉強や大学生活など受験生の悩みに応える多種多様な企画を、在学生が用意してお待ちしています。ぜひお越しください。※既に合格された現3年生の方もご来場いただけます
日3月7日㈯
時12時～16時
場渋谷キャンパス
問入学課（☎03・5466・0141）

「文学塾」受講生募集

内国学院大学文学部が、高校生のための新たな学びの場として「文学塾」を開講します。文学部5学科の専任教員が**右表**のように専門性の高い内容で講義し、知的好奇心の強い皆さんの期待に応えます。今回は昨年の御代替わりで注目された「改元」についての講義もあります。「文学部で学ぶ喜び」を体験してください！
日3月28日㈯
時▶**1限**＝10時30分～12時
▶**2限**＝12時50分～14時20分

文学塾の講義一覧

▶改元	
1限：新元号「令和」を考える―漢文学からみる背景―	長谷川清貴准教授
2限：亀と改元　―「神亀」「霊亀」と『万葉集』―	土佐秀里教授
3限：改元はなぜおこなわれたの？	佐藤長門教授
▶日本文学科（書道）	
1限：伝来する王羲之の書	橋本貴朗准教授
2・3限：王羲之「喪乱帖」を書く【実習】 ※定員30名	野村ひかり准教授
▶中国文学科	
2限：中国古典小説に見る民俗文化	浅野春二教授
3限：2500年以上前の孔子の言葉をどのように読むのか―『論語』とその注釈―	青木洋司准教授
▶外国語文化学科	
1限：アメリカと移民の架け橋として―ジェーン・アダムズの生涯と思想―	淺井理恵子教授
2限：外国語を学ぶための音声学基礎知識 ※定員50名	針谷壮一教授
3限：『星の王子さま』をフランス語で読んでみよう、訳してみよう【演習】 ※定員25名	笠間直穂子准教授
▶史学科	
1限：動物考古学入門【実習】 ※定員30名	谷口康浩教授
2限：江戸の歴史教科書	根岸茂夫教授
3限：荘園絵図と伝統的農村景観の保全	吉田敏弘教授
▶哲学科・日本文学科	
1限：弥次喜多、旅に出る	中村正明准教授
2限：浮世絵2020 ―旅するUkiyo-e―	藤澤紫教授
3限：福沢諭吉の江戸時代	藤野寛教授

▶**3限**＝14時30分～16時
場渋谷キャンパス120周年記念1号館
料無料
対高校生（教諭含む）
申3月14日㈯までに、本学HP（https://www.kokugakuin.ac.jp/event/146170）「文学塾Web申し込みフォーム」からお申し込みください。複数講座受講も可能。3人以上の場合、学校でまとめて申し込みできます。
※定員のない講座でも教室の収容人数によって募集を締め切ることがあります
問文学部資料室（☎03・5466・4813）

博物館

料無料
時10時～18時（入館は17時30分まで）、2月2日㈰、10日㈪は休館

シンポジウム〝幕末維新期の好古家ネットワーク〟

内開催中の企画展「古物を守り伝えた人々―好古家たち Antiquarians―」に合わせて、「日本学術振興会科学研究費 基礎研究（B）『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』（17H02025）代表：内川隆志」の対象事業として開催。当館の内川隆志副館長の趣旨説明に続き8人の研究者が登壇して発表します。
日3月7日㈯
時11時～18時
場渋谷キャンパス常磐松ホール
申不要
料無料

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

年頭コラム　今年の干支にちなんで

アジアを駆け巡る「鼠」

文学部准教授（特別専任）　服部比呂美

十二支の最初の「子（ね）」は鼠とされている。鼠と人間との関係は、日本では『古事記』に特別な動物として登場する。それは、白鼠が大国主に地下の空洞を教えて救う物語である。一方、口承の文芸として庶民に伝えられた昔話「鼠浄土」では、地下の鼠の浄土に団子を追いかけて入った正直爺に鼠が財宝を与えている。こうした物語からは、日本人にとって鼠は害獣ではなく、地下世界に住む霊力を持つ動物であると信じられていたことがわかる。

鼠をヨモノ、ヨメサマ、ウェンチュ（上の人）などの忌み言葉で呼ぶ習俗は各地にあった。柳田国男は「鼠の浄土」（『海上の道』所収）の中で、沖縄では鼠が海の彼方にある「ニライカナイ」にいる「テダの神」の子（孫）であると考えられ、このことが鼠を忌み言葉で呼ぶ背景にあることを指摘する。ここでも鼠は神秘的な「ニライカナイ」の存在となっている。

白鼠が吉祥として朝廷に献上されていたことは、『続日本紀』をはじめとする史書にも見えるが、江戸時代には、鼠が擬人化された出版物が無数に作られるようになった。中でも見合いから結婚、さらに出産までを描いた「鼠の嫁入」は、赤本、黄表紙、黒本・青本などのさまざまな草紙類に登場している。このことは18世紀前半に江戸の町で大流行する大黒天の信仰ともつながり、鼠は大黒様の使者として福をもたらすものとなっていった。

ところで、中国では鼠は「老鼠」と呼ばれている。鼠は大晦日の晩に嫁入りするものと信じられ、子どもたちは「早く寝ないと老鼠做親（鼠の嫁入）が出来ない」と寝かしつけられた。また旧暦の1月15日の晩は、大晦日の晩に結婚した鼠の智（ち）を迎える日であった。新年用の版画「年画」にも「鼠の嫁入」は好んで描かれていることから、中国でも鼠は祝儀性の高い動物と考えられていたようである。ベトナムの旧正月の縁起物として欠かせないバクニン省の「ドンホー版画」にも「鼠の嫁入」の画題があり、ここには行列を邪魔する猫に貢ぎ物をする鼠が描かれている＝**写真**。

さらにインドでは、鼠はヒンズー教で財宝を守る神であるガネーシャ（歓喜天）の乗り物であり、隠れた宝を探し出す役割を担っている。

このように、アジアでは福の要素を強く持った鼠はのびのびと駆け回っているように感じられる。

『TRANH DÂN GIAN DÔNG HÔ` DONGHO' S FOLK PAINTINGS』より

「赤紫の契り」野球応援ステージを披露

国学院大学全学応援団の１年を締めくくる「赤紫（せきし）の契り」が１月11日、渋谷キャンパス百周年記念講堂で催された。会場には多くの観客が詰めかけ、力強い応援の妙技を堪能した。

今年度で４回目を迎えた「赤紫の契り」は、４年生が最後に演技を披露する場であり、卒業を祝う意味も込められている。今回、新たな試みとして冒頭に「野球応援ステージ」を取り入れた。在学生や院友らに、野球応援の一体感や楽しさを知ってもらい、応援に足を運んでほしいという狙いだ。

続いて、チアリーダー部、ブラスバンド部、リーダー部が順に登壇。最後の三部合同ステージでは、４年生が中心となり、華やかな演技や演奏を披露した。

演技を終えた細谷慶太郎団長（法４）は「自分を変えたい気持ちから、厳しい環境を求めて応援団に入団した。団長を全うでき、過去の自分に打ち勝てた自負がある」と振り返った。団を引き継いだ正盛陽仁新団長（神文３）は「観客の皆さまや団員に、応援という文化を知ってもらい、好きになってもらえるような団をつくりたい」と抱負を語った。

東海大相模が初優勝 松尾三郎杯争奪 全国選抜高等学校柔道大会

第33回国学院大学松尾三郎杯争奪全国選抜高等学校柔道大会（国学院大学柔道部主催、毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社後援）が昨年12月22日、たまプラーザキャンパス体育館で開催された。

令和初の大会には、全国から60校が出場。１校５人で対戦する団体トーナメント戦で進められた。決勝戦は、いずれも初優勝を目指す東海大相模（神奈川）と木更津総合（千葉）の対決に。４試合を終え１勝２敗と後がない東海大相模は、大将の菅原光輝選手が大外刈りで一本勝ち。一本の数で上回った東海大相模が昨年に続く２回目の出場で初優勝を果たした。３位は加藤学園（静岡）と埼玉栄（埼玉）。優秀選手には、菅原光輝、近藤那生樹（以上、東海大相模）、甲木碧（木更津総合）、加古裕慈（加藤学園）、野村陽光（埼玉栄）の５選手が選ばれた。

本大会は、松尾三郎元理事長のスポーツ振興、とりわけ柔道振興に尽力した功績を顕彰することなどを目的に毎年開催され、柔道部員が主体となって運営している。会場には国際規格の柔道畳が敷き詰められ、国内トップクラスの審判員が試合を裁いた。

館内の柔道場では、トーナメントに敗れた高校同士が練習試合に励む姿が見られた。

柔道部

同級生３人 世界に挑む

相田 勇司選手　新井 雄士選手　武岡 毅選手

令和元年は、創部100年を迎えた国学院大学柔道部にとって歴史に残る１年だった。学生柔道の個人日本一を決める全日本学生柔道体重別選手権大会男子73kg級で、主将（当時）の島田隆志郎選手（健体４）が優勝。

さらに快進撃の中心となったのは、男子柔道界で屈指の強豪がそろう66kg級で２年生同士しのぎを削る相田勇司（法）、新井雄士（史）、武岡毅（日文）の３選手だった。くしくも同学年、同じ階級で競い合い世界を目指す３人が胸に秘める今年の目標とは。

――― **令和元年シーズンを振り返って**

相田選手（以下、相田）　講道館杯全日本柔道体重別選手権大会で優勝でき、グランドスラム大阪2019の３位入賞につなげられたという点では良かったと思います。

ただ、準決勝で対戦した阿部一二三選手（日本体育大学）との差がありすぎたのがショックでした。東京五輪の先を見据え、まだまだ時間はあるので追い上げ、追いついて、追い越すことができればと思ったのが１年の感想です。

武岡選手（以下、武岡）　一昨年までは60kg級で戦っていましたが、階級を上げて試した１年でした。全日本ジュニア柔道体重別選手権大会で優勝できたのですが、講道館杯の準決勝で相田に負けたし（５位）、国際大会（世界ジュニア選手権大会）でも勝たなければいけない試合（決勝）で詰めの甘さが出てしまいました。

新井選手（以下、新井）　全日本ジュニアには一昨年に初めて出場しましたが、１回戦で敗れて悔しい思いをし、次こそは優勝しようと思っていました。しかし、決勝で武岡と対戦して負けてしまいました。全日本学生、講道館杯とレベルが上がるにつれて自分は力が足りなかったのかなと思っています。

――― **今年の目標は**

武岡　今年は今の自分が持っている力以上のものを発揮し、できれば優勝をしてしっかりとした成績を残したいです。次の出場予定は、３月にロシアで開かれるグランドスラム・エカテリンブルクです。試合に身体のピークを持っていけるように努力していくつもりです。

新井　講道館杯に出てみて、周囲とかと見比べて組手や体力面でも劣る部分があったと感じています。ジュニア大会ではあまり感じることはなかったのですが、シニアでは組手や技もレベルに達していないと思うので、一から鍛えていきます。

相田　今年はグランドスラム・パリ（２月）から始まります。外国人選手には負けないという自信はあるので優勝を狙ってしっかりと勝ち切っていきたいと思います。４月に福岡で開かれる全日本選抜体重別選手権大会にも出場できる見込みですが、阿部選手、丸山城志郎選手（ミキハウス）と対戦できる機会もあると思うので、きちんと勝ち上がって、前回のグランドスラムで感じた相手との力の差が少しでも縮小していればいいかなと思っています。

――― **ありがとうございました。**

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。

柔道部 創部100年を記念し祝賀会

大正８（1919）年に創部した柔道部の100周年を記念した祝賀会が昨年12月14日、明治記念館（東京都港区）で開かれ、柔道部関係者、大学関係者が節目を祝った。

主催者の挨拶で木村好成・同部最高顧問（国学院大学栃木学園理事長）は、100年の歴史を振り返り、「令和元年に創部100年を祝うことは大変意義あること。後輩諸君は成績を上げていて頼もしい限り。柔道部の歴史がさらに発展し、大学のために尽くしてほしい」、笹生衛部長（神道文化学部副学部長・教授）は「今後も三船久蔵十段、松尾三郎八段と受け継がれてきた精神を実践しさらなる活躍を目指していきたい」、廣井武司総監督は「今後ますます期待に沿えるように学生とともに頑張っていきたい」とそれぞれ述べた。

来賓祝辞では、佐柳正三理事長が「ユニバスの

設立により、大学スポーツは新しいステージにある。柔道の実力向上はもとより、人格陶冶（とうや）にも一層努力されることを願ってやまない」、針本正行学長は「柔道部の歴史のたまものとして今日の学生諸君の活躍があるのではないかと思っている。今後とも活躍を祈っている」とそれぞれ挨拶した。

続いて鏡開きが行われ、晴れやかに創部100年を祝った。

K:DNA

2020 1

K:DNA——創立138年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

最後まであきらめず 2年間の集大成

出雲駅伝初制覇など数々の歴史を塗り替えてきた陸上競技部。箱根駅伝での２年連続の総合順位更新、シード権獲得に東京・大手町に集まった選手、監督コーチらは達成感に包まれた。前田康弘監督は「魂の走りが最後まで諦めないことを教えてくれた」と殿地琢朗選手を称え、「（青山学院大、東海大を）超えられるように挑戦していきたい」と気を引き締めた。

試合後、本学のフェイスブックには「心震える光景でした」「諦めない気持ちを体現してくれて、ありがとう」など、多くの院友から喜びの声が寄せられ、記録にも記憶にも残る２日間となった。

選手たちに胴上げされる前田康弘監督

第96回箱根駅伝（総合順位）

順位	大学名	総合タイム
1	青山学院大	10時間45分23秒
2	東　海　大	10時間48分25秒
3	**国 学 院 大**	**10時間54分20秒**
4	帝　京　大	10時間54分23秒
5	東京国際大	10時間54分27秒
6	明　治　大	10時間54分46秒
7	早 稲 田 大	10時間57分43秒
8	駒　沢　大	10時間57分44秒
9	創　価　大	10時間58分17秒
10	東　洋　大	10時間59分11秒

以上、シード権獲得（以下略）

【1区】区間2位
藤木 宏太選手（神文2）
1時間01分18秒

区間賞は欲しかった。もう少し頑張っていればという気持ちもあるが、区間２位で流れをつくり役割は果たせたと思う。

【2区】区間8位
土方 英和主将（健体4）
1時間07分19秒

往路優勝はできなかったが、総合３位に悔いは全くない。復路は３年生以下のメンバーがよく頑張ってくれた。来年は真価が問われる１年になる。

【3区】区間5位
青木 祐人選手（経ネ4）
1時間01分34秒

（青山学院大選手との）最後の競り合いは意地だったが負けてしまった。４年間やってきて、持てる力は出し切った。

【4区】区間3位
中西 大翔選手（健体1）
1時間01分53秒

緊張感を持ってスタートラインに立ったが、楽しく走ることができた。三大駅伝出場を目標に１年間やってきた。経験を次に生かしたい。

【5区】区間3位・区間新
浦野 雄平選手（経営4）
1時間10分45秒

往路の４人が完璧な走りで繋いでくれて勇気をもらった。個人として不本意な走りとなったが、チーム全員で総合３位を獲得できて、一番うれしい。

【6区】区間8位
島崎 慎愛選手（経営2）
59分01秒

４年生にはお世話になってきたので、走りで（恩を）返そうと思って最後まで走った。目標としていたタイムを上回れたのでよかった。

【7区】区間11位
木付 琳選手（経2）
1時間04分31秒

初めての箱根駅伝で自分の走りができず悔しい思いもあるが、チーム目標の総合３位を達成することができてうれしい。来年またリベンジをする。

【8区】区間7位
河東 寛大選手（神文3）
1時間06分10秒

総合３位が達成でき、今はうれしい。後半に失速したので反省はあるが、来年チャンスがある。しっかり強化してやっていきたい。

【9区】区間19位
茂原 大悟選手（史4）
1時間12分30秒

総合３位はうれしいが、個人としては悔しい結果。指導者になって、頑張っても結果を出せない生徒に寄り添い導けるように経験を生かしたい。

【10区】区間4位
殿地 琢朗選手（健体2）
1時間09分19秒

最後に競ったときは３位しか見てなかった。往路優勝ができなかった分、総合３位は必ず達成しないといけないと思っていた。

未来につなぐ 学術資産研究ノート

大正、昭和期の京都周辺の民俗を調査した貴重資料

井上氏旧蔵資料　井上頼寿ノート・メモ

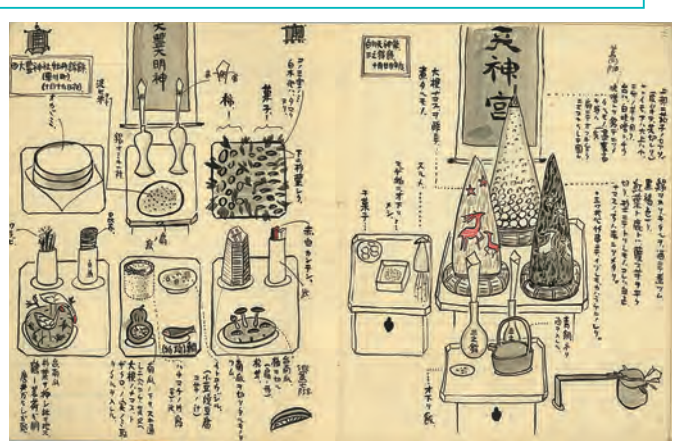
国学院大学が所蔵する「井上氏旧蔵資料」は、国学者の井上頼圀（1839～1914）、神宮（伊勢神宮）の禰宜や神宮皇学館の教授をつとめた頼文（1861～1932）、近畿地方の民俗を調査した頼寿（1900～79）３代の資料群である。頼圀が、昭和21（1946）年まで本学の経営母体であった皇典講究所の創設・運営に深く関わったことから、平成19年４月に井上頼輝氏の御篤志により寄贈された。

井上頼寿は、現在の三重県伊勢市に生まれ、大正13（1924）年に京都府立京都第二中学校（旧制）へ教諭として赴任した。これ以降、京都を拠点とし、近畿地方の祭りや信仰などの民俗について調査を行った。主著に『京都古習志』（館友神職会、昭和15年）、『近江祭礼風土記』（滋賀県神社庁、昭和35年）がある。

これらの著作は、「井上氏旧蔵資料」に含まれる頼寿のノート・メモ群（約650点）をもとに記述されたようである。このノート・メモには、当時の祭りなどについての情報が含まれており、今後、民俗学だけでなく、神道学、歴史学など、多分野からの調査・分析が望まれる。

なお、「井上氏旧蔵資料」のうち、頼文の資料については、国学院大学博物館で行われる企画展「古物を守り伝えた人々―好古家たちAntiquarians―」（１月25日～３月15日）において展示される。

（研究開発推進機構准教授・大東敬明）


井上頼寿ノート『京之山』No.4（大豊神社牡丹鉾飾〈左〉・白川天神祭三之鉾飾〈右〉）【国学院大学所蔵】